

優秀賞  
ゆうしゅうしょう

中学生区分  
ちゅうがくぐけいくぶん

人権について  
じんけんについて

那覇市立仲井真中学校  
なはしりつなかいまちゅうがっこう

一年  
いちねん

宮城 志寧  
みやぎ しのぶ

私は、ダウン症や障がい者を差別することはよくないと思います。私がそう思う理由を二つの観点から根拠と合わせて説明していきます。

一つ目の理由は、人道的に差別は良くないと考えるからです。この根拠として、私たちは皆、人権を持っているというところにあります。そもそも、人権の定義として、「人が人として、社会

の中で、自由に考え、自由に行動し、幸福に暮らせる権利」というものが簡潔なモノでありここからも分かるように、私たちは幸せになる権利があります。そして、ここに障害の有無は関係ありません。つまり、その人が嫌なら、差別してはいけません。もちろん、幸せになる権利があるからです。私が、幸せだと感じるのは、ごはんを食べている時です。あなたの幸せな時は何ですか？こんなことを考えていると、心がおだやかになった気がしますね。ここで、よくこんなことを思う人がいるかもしれません。『人権の中に自由に行動できるってあるけど、これなら差別してもいいんじゃないの？』と。これは、国から「いじめ」という言葉でまとめられています。他人の幸せをおびやかすのは、いじめということになり、様々なところでいわれているように、いけないということになります。他の人の幸

せをなくさないような幸せな時を探してみてはいかががでしょうか。そうすることで、障害のあるなしに関係なく、誰もが幸せになれることができます。

二つ目は、人は特定の誰かの「クローン」では無いからです。

「クローン」というのは、簡単に説明すると、特定の生物の完全なるコピーで、近いモノでは工場の製品等が挙げられます。ね

じを思い浮かべてみて下さい。同じ種類のねじの大きさ、長さ、

太さは等しい筈です。これは、同じ種類のねじが共通の規格を

コピーしたモノだからです。しかし、人は、そうではありませ

ん。人は一人一人、身長も、体重も、顔も何もかも違います。

そして、それには歴史が関係しています。人は自分達が「人」と

いう生物でない程の遠い太古の時代、自分自身の「クローン」を

作り出して増えていきました。先述したねじの様な状況にな

ったのです。異なる筈の身長も、体重も、顔も全て同じな訳です。しかし、この状況に変化が訪れます。今まで自分自身を

コピーして数を増やしていたのが、自分とは別の個体を作つて

数を増やす様になったのです。これ以降、人は身長も、体重も、

顔も何もかもが異なる様になりました。勿論、生まれる前から

ある障がいもその様にできたのです。人の身長、体重、顔、

障がいの有無等の違いは、人が進化の過程でそれらが異なる様

に変化した結果なのです。なので、人が一人一人異なることは

当然のことであり、どんな人であろうが人権を保証できる。「人」

である。これこそが人権を保証される理由なのです。そして、

人権が保証されるといふのは、差別が許されない十分な理由と

なります。

最後に、障害と人権に関する、「バリアフリー」という誰にと

つても不自由なく活動できるような制度や施設づくりがされて  
います。その中の一部から、二つ程紹介したいと思います。ま  
ず一つ目は、階段などにある手すりです。身近すぎて驚いてい  
る人がいるかと思いますが、これも立派なバリアフリーです。  
主に気分の悪い人や歩きなどが不自由な人のために設置された  
ものです。二つ目は点字ブロックです。これは歩道などに設置さ  
れている、黄色のものです。縦線のものでそのまま歩く、点のと  
ころが曲がるところや、止まるところという意味を持ち、これ  
はバス停の近くにあることが多いです。みなさんも、体やここ  
ろの違いなどの差をできるだけなくす、バリアフリーを探して  
みるのはいかがでしょうか。そして、多様性のこの時代に対する  
意識を高めていってくださいね。